

# Q&A

## 内部に充実成分を有する肝嚢胞性腫瘍

### 【問 題】

症例：60 歳代，男性。

主訴：なし。

現病歴：健診の腹部超音波検査にて内部に充実成分を含む肝嚢胞性腫瘍を指摘され，精査目的で当院へ紹介となった。

生活歴：喫煙 なし，飲酒 焼酎 120ml/日。

既往歴：特記事項なし。

常用薬：なし。

家族歴：特記事項なし。

現症：身長 162.8cm，体重 70.0kg，BMI 26.4kg/m<sup>2</sup>，腹部 平坦，軟，腫瘍触知せず。

血液検査所見：WBC 4900/μl，Hb 14.5g/dl，Plt 18.9 万/μl，PT% 76.5%，Alb 4.5g/dl，AST 21U/l，ALT 10U/l，γ-GTP 20U/l，ALP 120U/l，T-bil 0.7mg/dl，D-bil 0.1mg/dl，AFP 2.3ng/ml，PIVKA-II 17mAU/ml，CEA 2.2ng/ml，CA19-9 2.0U/ml，ICG-R15 11.2%，HBsAg (-)，HCVAb (-)。

腹部超音波，CT，MRI 画像を示す (Figure 1)。

考えられる疾患は？

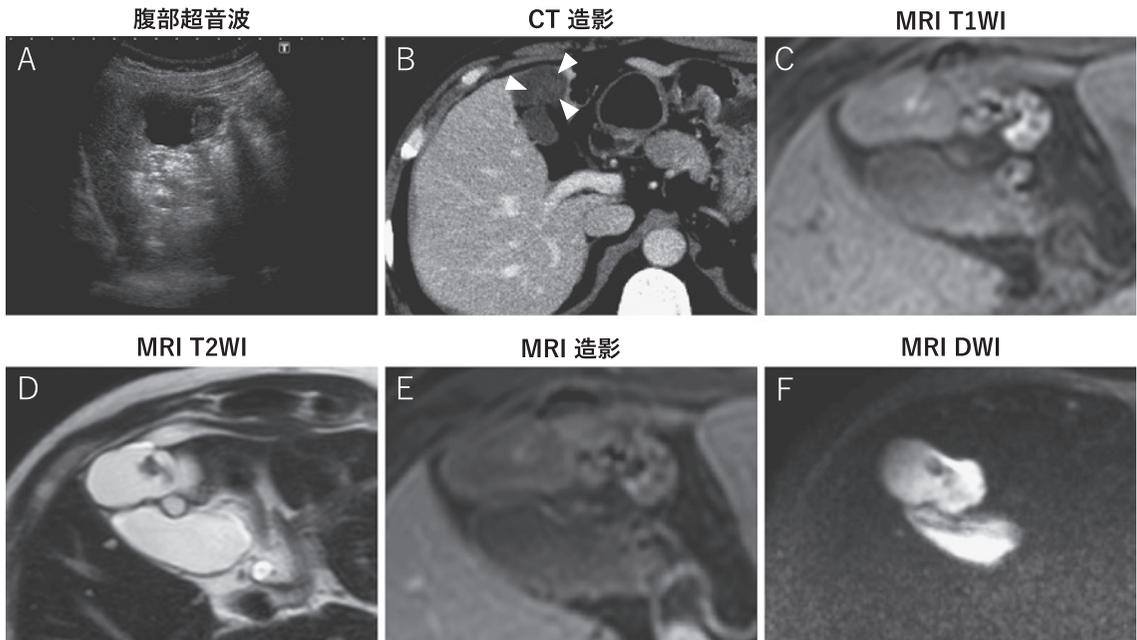


Figure 1. 画像検査 A) 肝嚢胞性病変内に境界明瞭な隆起性腫瘍を認める。B) 造影CTでは嚢胞内腫瘍は淡い造影効果を有する (白矢頭)。MRIではC) T1WIで軽度高信号，D) T2WIで低信号，E) 造影効果は軽度あり，F) DWIでは明らかな拡散制限を認めない。